

事業実績シート（研修及び調査・研究）

2 実績結果

事業費の推移		前々年度決算	前年度決算	当該年度決算					
事業費（円）		0	0	48,890					
（財源内訳）	国庫支出金	0	0						
	県支出金	0	0						
	地方債	0	0						
	その他	0	0						
	市町振興共同事業助成金	0	0	32,593					
	一般財源	0	0	16,297					
目標・目的指標	指標名		指標設定の考え方	単位	区分	前々年度	前年度	当該年度	
	①			人	目標				
					実績				
			目標達成率（％）						
	②	住民の方に議会がみえ、住民の意見を聴く議会となり、開かれた議会を目標とする。	定例会の傍聴者数の増、議会だよりへのご意見など議会への関心をどれだけ住民にもってもらえるか。			目標			60人
						実績	52人	51人	62人
		目標達成率（％）					103%		

3 事業の振り返り

必要性の点検	(1)実施することによるメリット
	（内容、程度等） 別紙のとおり

事業実績シート（研修及び調査・研究）

4 有効性の点検、実現性の点検

有効性の点検	(1) 目標（目的）指標の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 目標（目的）指標の実績値は、目標をほぼ達成した <input type="checkbox"/> 目標（目的）指標の実績値は、目標を下回った	
	(2) 実施前、想定していた目標・目的が達成できた理由またはできなかった理由 開かれた議会への前進するため、議会だよりを住民とのコミュニケーションツールとしての機能を持たせるため、単に周知するだけでなく、住民の意見を聴く機会を設け、また議会傍聴者についても、積極的な呼びかけをした。	
	(1) 事業への反映 <input checked="" type="checkbox"/> 成果は事業（実務）に反映できる <input type="checkbox"/> 成果は事業（実務）に反映できない	(具体的内容) 議会改革、議会運営について、他議会の状況を含めたところで、事務局はじめ議員に対しても研修内容を報告し、事務局と議員が一緒になって考えることにより、開かれた議会へと取り組むことができる。
	(2) 公共性の評価 本研修及び調査・研究を通じて <input type="checkbox"/> 住民へ利益を還元できる <input checked="" type="checkbox"/> 住民への利益を将来的に還元できる <input type="checkbox"/> 住民へ利益を還元できない	(具体的内容) 議会事務局職員は執行と住民のパイプ役である議員の補佐役としての役割があり、議会事務局の体制整備と職員の専門能力の向上を図り、議員が住民の代表として、住民の視点で議案を審議し、よりよい議案の審議が実現することが、住民福祉の増進に寄与することとなる。

5 今後の方向性

必要性の点検から	<input type="checkbox"/> 事業休止	<input type="checkbox"/> 事業廃止	<input type="checkbox"/> 民営	<input type="checkbox"/> 事業終了（完了）	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
実施予定時期					
有効性の点検から	<input type="checkbox"/> 目標・目的未達成	<input type="checkbox"/> 目標・目的達成	<input type="checkbox"/> 類似事業との統合		<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
実施予定時期					
実現性の点検から	<input type="checkbox"/> 事業へ反映	<input type="checkbox"/> 事業に反映できない	<input type="checkbox"/> その他		<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
実施予定時期					
具体的内容	佐々町議会の議会運営、全国的に行われている議会改革に対し、事務局職員としてどのように対応し、補佐していくべきなのかを実務的に学べることができる。 また、研修参加者も市議会、町議会と議員の数に差があるものの、事務局が抱えている問題はそう変わらない。基礎的な内容の講義もあったが、事務局職員の情報交換の場としての役割も持っており、グループワークで得た情報は議会運営の参考となる。				